

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	短信：回顧録（二）
Author(s)	赤星，陸治
Citation	龍南，238：28-28
Issue date	1937-10-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7401
Right	

生の子供時代には色々の事情で許婚がありました。小生も其の一人に當ります。小生が十六七歳、妻が七八歳の時分に、もはや父母や祖母が取り決めてゐたのださうです。さて、此の宴會には、小生の實妹や、當時許婚の私の妻や、他に一二の娘が御酌に出たのですが、一早くもそれを看破して、小生の妻と云ふ事に決定したと云ふのも、随分爛眼ではありませぬか。同窓の中には、仲々偉い者が居つたと云ふ事が御分りでせう。御一笑々々々。然し、辯解しておかねばならぬ事は、許婚だけで、決して同棲した事はなかつたのです。絶対になかつたのです。それは、小生が在學中に、人圓主義と云ふ一冊子を書いた事があります。其の中に、早婚の弊を擧げて、在學中に妻帯すべからずと述べて居ります。故を以て、父母は自ら云はずして、小生の母方の伯父をして小生に結婚を迫つた事がありました。私は固く辭して受けませんでした。此は慥かです。

かくて此の行軍は、八代にて一夜を明かす事となり、先生達は旅館に、學生達は小生宅附近の醫王寺（小生の親類）等に分宿して、翌日、一行は歩武堂々として五高に凱旋したのであります。

短 信

赤 星 陸 治

母校五十年記念に何か書かねば相濟まぬが、何としても、忙がしくて、書けません。たゞ思ひ出の、卽興の一句を、左に。

五高創立當時の懷古

夏草にいまなほありや五孤の塚。 赤星水竹居

十時校長にくれぐ宜敷。

（七月十七日、平戸裕人宛）